

広報誌『めだか』の名前の由来

三九朗病院 元管理部長 前田 きくの

広報誌『めだか』の名前の由来は、当時理事長であった前田実が、病院の中庭で飼育していた「めだか」にあります。

大きな鉢をいくつも並べ、毎年卵からかえるのを楽しみにしながら、多くのめだかを育てていました。何千匹もいたと思います。患者さんたちもそれを眺め、癒されていました。三九朗病院では、めだかは多くの人に知られ、親しまれていた存在でした。また前田は、増えためだかを多くの方に分けていました。

そうした折に機関誌を作成することとなり、表題は「めだか」がふさわしいのではないかということになりました。懐かしい思い出です。



編集委員より



2010年の第44号から関わり、本号で100号となりました。原稿はスタッフ一人ひとりが思いを込めて執筆し、広報委員会も共に誌面を作り上げてきました。

励ましの言葉に支えられながら、これからも病院の今をお伝えしていきたいと思ひます。

広報誌『めだか』では、皆さまのご意見・ご感想を募集しています。今後の誌面作りの参考にさせていただきます。アンケートは無記名です。回答内容を誌面に掲載することはありません。スマートフォンで右のQRコードを読み取り、ぜひご回答ください。



めだか

さんくろうニュース

5月号

MEDAKA

2026年 (No.100)



特集

広報誌『めだか』が
100号を迎えました!

巻頭

新入職員を紹介します

広報誌名『めだか』は、当院の中庭でみんなに愛でられ育つめだかのように、親しんでいただきたいという思いから名付けられました。

めだか 100号 (2026年5月) 年3回 (2月、5月、10月) 発行

表紙絵: 「愛と感謝を込めて」 坂尾 有美

発行責任者: 加藤 真二 発行: 医療法人 三九会
〒471-0035 愛知県豊田市小坂町7丁目80番地
TEL 0565-32-0282 (代) FAX 0565-35-2570

外来診療のご案内 サンクロー
診療予約専用 ☎0565-35-3960



三九朗病院
モバイルサイト



医療法人三九会

広報誌『めだか』が100号を迎えました！

広報誌『めだか』は、1969年に『すこやか』として創刊し、その後発行が途切れた病院の歩みとともに、その時々現場の思いを伝えてきた広報誌は、皆さまに支えられこれからも、三九会の取り組みや日々の様子をお伝えしてまいります。

期間を経ながら、形を変えて続けてきました。そして今号で100号を迎えることができました。



病院の歩みと広報誌の変遷

- 1954年 三九朗診療所 開設
- 1956年 三九朗病院と改名
- 1959年 市名が「豊田市」に変更



▷三九朗診療所
(胃腸科・外科・小児科・皮膚科・神経科)



初代院長 加藤 三九朗

- 1969年 病院広報誌『すこやか』発行

B5サイズ・14ページ前後 院内レイアウト (DTP)、印刷外注 休刊期間を挟みながら1992年まで発行



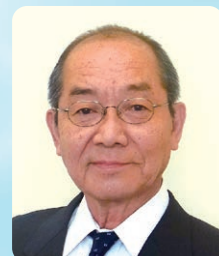
▷病院広報誌『すこやか』
原稿執筆からレイアウトまですべて
院内で行っていました。



2代目院長 加藤 健

- 1970年 医療法人 三九朗病院と改名
- 1979年 名鉄豊田新線 (現豊田線) が開通
- 1988年 愛知環状鉄道が開通

- 2001年 豊田スタジアム オープン
- 2003年 回復期リハビリテーション病棟 スタート
- 2003年 院内報『めだか』発行
A4サイズ・4ページ 院内作成 (レイアウト (DTP) ~印刷)
2004年まで発行
- 2004年 院内報『ズームアップ』(6号) 発行
A4サイズ・4ページ 院内作成 (レイアウト (DTP) ~印刷)
途中、休刊期間をおきながら2008年まで発行
- 2007年 メディカルフィットネス SHIN-SHIN スタート
- 2010年 病院広報誌『めだか』(44号) 発行
A5サイズ・12ページ
原稿作成後、レイアウト (DTP) ・印刷を外注
2026年5月号で100号となりました
- 2014年 リハビリデイサービス颯とよた スタート
(2021年より名称をリハビリデイサービス ao に変更)
- 2023年 三九朗東リハビリテーション病院 開院
- 2024年 リハビリデイサービス lino スタート



3代目院長 前田 實



▷病院広報誌『めだか』44号
全面リニューアルを経て現在の形に。この号から表紙の絵はやわらかいタッチが印象的な坂尾 有美さん
にお願いしています。



現院長 加藤 真二

めだか 100号に寄せて

現役職員・元職員からのメッセージ

『すこやか』第17号(1990年)に執筆した現役臨床検査技師 A さん

100号おめでとうございます。当時の『すこやか』の記事を見て甘酸っぱいような不思議な感覚と温かい気持ちになりました。「温かい気持ちにさせる」のが三九朗病院広報誌であり、50年もの長い間、院内外の多くの人たちに愛されてきた理由ではないかと感じます。この先も末永く続きますことを願います。



広報誌『すこやか』17号

『すこやか』の頃からご縁のある元職員 (看護師) の B さん

三九朗先生の投稿や『すこやか』に掲載されていた富士山の絵が懐かしく思い出されます。職員として過ごした日々とともに広報誌も心に残っています。発行を続けてこられた皆さまに感謝申し上げます。『めだか』も病院の様子が伝わり、毎号楽しみにしています。これからも応援しています。



初代三九朗院長の描いた富士山の絵が：
題字の背景にも「めだか」の

ナースの部屋

患者さんの笑顔のために

患者さんの思いに寄り添う医療・看護

統括看護長 加納 明美 かのう あけみ

当院では、患者さんの思いを大切にするアドバンス・ケア・プランニング（ACP）※や、患者さんを含めた多職種での目標づくりなど、地域の皆さまに安心していただける医療・看護を目指し、さまざまな取り組みを行っています。11月に大阪で開催されたリハビリテーション・ケア学会で、当院の2名の看護師がその実践内容を発表しました。



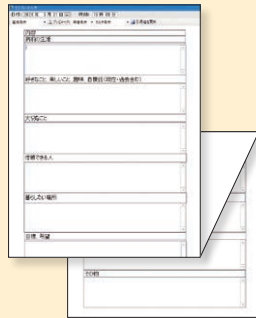
※ アドバンス・ケア・プランニング（ACP）：必要に応じて医療・ケアチーム等の支援を受けながら、本人が現在の健康状態や今後の生き方、受けたい医療・ケアについて考え、家族等と話し合うこと。（参考：厚生労働省ホームページ「人生会議」してみませんか）」

1

アドバンス・ケア・プランニングを院内に浸透させていくために

A3 病棟 課長 加藤 瞳 かとう ひとみ

当院では、患者さん一人ひとりの「これからどのように過ごしたいか」という思いを大切にするアドバンス・ケア・プランニング（ACP）を、病院全体で推進しています。看護師だけでなく医師や療法士、事務職など多職種でプロジェクトを立ち上げ、研修会を重ねながら理解を深めてきました。さらに、患者さんの思いを共有できるカルテ内システム「寄り添いパレット」



寄り添いパレットの画面
異なる職種のスタッフと患者さんの思いを共有できる心強いツール

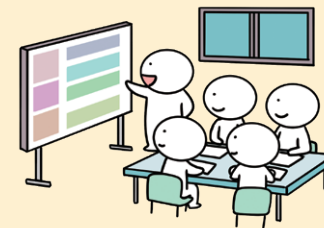
ト」を導入し、日々の関わりの中で得られた患者さんの思いを、職種を超えて共有できる仕組みを整えました。今後も地域の皆さまが安心して療養できるよう、患者さんの思いに寄り添う医療・看護を続けていきます。

2

患者さんを含めた多職種での話し合いを大切に

リハケア部 主任 田口 裕子 たぐち ゆうこ

「ここに来て良かった」と思っていただけの病院を目指し、患者さんを含めた多職種での話し合いを大切にしています。これまでのカンファレンスでは、患者さんから伺った思いが具体的な目標や看護計画に十分つながらないという課題がありました。そこで、回復期看護の役割や目標設定の進め方を振り返り、患者さんの思いを中心に目標を多職種で共に考える仕組みを整えました。患者さんが主体的にリハビリや日常生活動作に取り組めるよう支援することで、その人らしい回復をチームで支えています。今後もより具体的な関わりを積み重ね、地域に信頼される看護を実践していきます。



めだか100号に寄せて

広報誌『めだか』が歩んできた歴史と同じく、この地域で長く看護に携わる中で、多くの患者さんと出会い、支えられてきました。その積み重ねを大切にしながら、これからも思いに寄り添う看護を実践し、地域に信頼される看護を積み重ねてまいります。

専門職が支える、『もう一度できた』の実現

リハビリテーション部 課長 玉井 照久

リハビリデイサービス lino は、介護保険をお持ちの方を対象として運動を中心に行うサービスです。2024年4月にオープンし2年が経過しました。ウェルビーイング[※]を目指し、利用者さまの「〇〇したい！〇〇をやってみた！」を一緒に考え、住み慣れた地域でその人らしい生活、よりよい生活を送ることができるよう支援しています。



理学療法士と作業療法士が在籍しており、利用者さまの状態に合わせて、運動プログラムを決めています。利用者さまからは「温泉に行けるようになった」「ボランティアに再び参加できるようになった」などの声があり、お身体の状態の改善だけでなく、生活の幅や豊かさの拡大にもつながっているようです。

「身体を動かす・気持ちを動かす・心を動かす」支援、皆さまのウェルビーイングの支援ができる施設を目指しています。

※ ウェルビーイング：心身ともに満たされ、その人らしく安心して生活できる状態のこと

リハビリデイサービス lino

【利用時間】
月～金曜日（祝日も営業）

2部制
・午前 9:30～12:30
・午後 13:30～16:30

【お問い合わせ】
☎0565-41-3445 玉井 照久

★利用者さまスケジュール

9:30	9:40	10:00	12:30
健康確認 (血圧・体温)	準備体操 □腔体操	個別リハビリ グループリハビリ マシントレーニング モニタリング	終了 送迎
13:30	13:40	14:00	16:30

めだか100号
に寄せて

100号おめでとうございます！広報誌「めだか」が積み重ねてきた歩みを大切にしながら、これからも一人ひとりの「できる」を支えるリハビリの現場の取り組みや思いを発信していきます。

負担のかからない介助方法
& 家でできるリハビリ

No.35

自主トレ指導の取り組み

リハビリテーション部 主任 伊藤 美和子

入院中、療法士と行うリハビリは、病気の種類にもよりますが、1日に最大2～3時間（120～180分）です。退院後は通所リハビリ^{※1}などに通っても、療法士と行う時間は長くても20分となります。そのため、入院中から自分で運動をする習慣をつけ、体力や動きを維持していくことが大切です。

そこで、入院中に身の回りのこと（起き上がる、トイレに行くなど）がある程度自分でできる方には、リハビリ時間以外での運動・活動（自主トレ）を提案し、行っていただくようにしています。そして、退院してからも続けられるように、運動の方法を書いた紙をお渡ししています。

担当の療法士だけでなく、ほかの療法士や看護師などのスタッフにも、誰がどのような自主トレを行っているか知ってもらい、自主的に運動している方には声をかけるなど、やる気をもって続けていただけるように取り組んでいます。



病室で行ってもらうように、運動内容を掲示しています

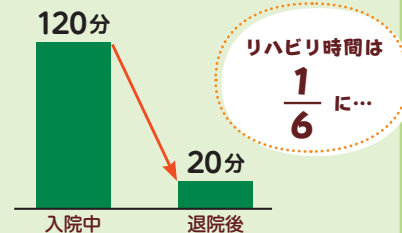


リハビリ時間外に自主トレをする入院患者さん

自主トレの内容

- 手すりでの運動
- 自転車エルゴメーター
- 廊下を歩き散歩の習慣をつける
- トレッドミル^{※2}
- 麻痺した手足の運動やストレッチ
- 折り紙・塗り絵など

リハビリ時間の違い



※1 通所リハビリ：通所リハビリテーション。介護保険を用いて利用できるリハビリ。介護度・介護プランにより通える回数などは異なる。

※2 トレッドミル：屋内で歩く、走ることができるランニングマシン。ベルトの上を歩く・走る有酸素運動を行うことができる。

リハケア部が目指す「未来創造」

三九朗東リハビリテーション病院 リハケア部 管理職一同

2026年4月、三九朗東リハビリテーション病院は開院から4年目を迎えました。

この間、リハケア部では全職員が一つの部署として協力し合い、土台作りに取り組んできました。3年間、共に歩んでくれた職員に感謝の気持ちを伝えたいと思います。

リハケア部のスローガンは、「未来創造」です。この言葉の意味には、次のような思いが込められています。

- 職種の垣根を越えた連携
- 横のつながりを大切にすること
- 患者さん中心のより良いケアの提供
- 患者さんと共に未来を創造

2024年から「ふれあい祭」の開催、2025年に病院機能評価（リハビリテーション病院）の取得、さらに、地域交流館で出前講座の実施など患者さんだけでなく地域の皆さまとのつながりも深めてきました。

地域の皆さまが住み慣れた地域で安心して暮らせるようサポートし、「ここに来て良かった」と皆さまに選ばれ信頼される病院であり続けるために、これからも職員一丸となり「未来創造」のスローガンのもと、質の向上と地域に信頼される病院を築いていきたいと思ひます。



【写真左】美里交流館での講演会
100名を超える参加がありました
【写真右】2025年度のふれあい祭の様子



めだか100号に寄せて

創刊100号ってすごいですね、私たちも一つひとつ積み上げていきたいと思ひます。「千里の道も一歩から」

SHIN-SHIN とよた が発信します！

しなやかなカラダを目指そう！

カラダを動かす機会が減って筋肉が硬くなってしまったり、運動不足になったりしていませんか？ 爽やかに動きやすい気候となりました。かたまっただカラダをほぐす体操から始めてみましょう！



首こり・肩こり予防体操（15回程度）



体幹リフレッシュ体操（15秒程度）



めだか100号に寄せて

運動は正しく行くとメリットがたくさんあります。私たちは、身体を動かす大切さを皆さまに実感していただけるよう「正しく・安全に」行える運動を『めだか』でお伝えしてきました。これからもお届けいたしますので、ぜひお楽しみに！

見学・無料体験受付中！ スタジオプログラムの体験もできます！！

● メディカルフィットネス SHIN-SHIN とよた（三九朗病院内） ☎ 0565-34-6272
【体験受付】 10:00～19:00（休館日：日曜日） 【営業時間】 9:00～21:00（土・祝20:00まで）（休館日：日曜日）